

令和7年12月定例会あいさつ

皆さまおはようございます。

本日ここに、久山町議会12月定例会を招集しましたところ、議員全員のご出席を賜り、誠にありがとうございます。

いよいよ2025年も残り1カ月となりました。町民の皆さまには、どうか体調にはくれぐれもご留意いただき、令和7年、最後の月を心穏やかに過ごされ、新しい年を健やかに迎えますようお祈りを申し上げます。

さて、国内における、今年の動きを振り返りますと、まず4月には、日本で20年ぶりとなる大阪関西万博が開幕しました。開幕前には、さまざまな意見や批判もありましたが、半年間で約2,900万人が来場し、結果として、幅広い世代から支持される評価の高い万博となりました。

一方、国民の生活においては、令和の米騒動と揶揄されるほどの米不足と価格高騰が今年も続き、食や農に対する価値観の変化が全国的に広がりました。地産地消、食料自給の重要性を改めて認識される1年でもあったと思います。そして10月には、日本の歴史上初となる女性総理、高市早苗総理大臣が誕生し、新たな政権が発足しました。高市総理は、先日、全国の町村長が一堂に会した全国町村長大会において、人口減少や物価高騰などの課題に対応していくため、責任のある積極財政の考えのもと、強い経済の構築に向けた戦略的な財政出動について力強いメッセージを示されました。11月には、総額21兆3,000億円規模の施策と具体的なプランが閣議決定され、本町においても、そのうちの一つである高校3年生までの子ども1人当たり2万円を支給する物価高対応子育て応援手当について、今回の補正予算に計上しております。今後も国の動向を注視しながら、迅速な対応を努めてまいります。

本町においては、これまで培ってきた国土・社会・人間の3つの健康づくりの次のステップに向けた新たな取り組みを進めてきました。

まず、3月には3年間取り組んできた久山中学校図書館のリニューアル事業が完了しました。延べ26人の中学生委員の皆さんの力でリニューアルした図書館は、現在、中学生が主体的に運営するももたろう・カフェや受験生のスタディールームとして活用され、新たな学びの拠点として発展しています。そして、夏には、長年の懸案事項であった山田小学校体育館の改修工事を完了し、熱中症対策に向け、町内体育施設の空調設備も整備を完了しました。

さらに、農林業の分野では、新たにドローン等の活用に対する久山町航空防除推進事業補助金を創設するほか、国に先駆けて、高校生以下の子どもがいる982世帯に久山町地域お米券を配布しました。また、久山町産材利用促進事業補助金を新たに創設し、建築費の一部を助成することで、町で育った木材の町内消費を促進しました。

このように、物価高騰支援と農林業の維持を両立しながら、新たな価値を生む久山型循環経済に向けた動きを本格化させております。

また、先月27日には、九州電力福岡支店、九電みらい財団とともに、久山九電みらいの森の整備に向けた協定締結式をとり行いました。諫早市、霧島市に続いて、3番目、九州北部で初となるこの事業は、環境教育や地域交流の拠点となる森づくりに取り組むもので、自然を大切に守り続けてきた本町にとっても、未来へつながる新たな地域資源となることが期待されます。来年の秋にはフィールドの整備を終え、活動がスタートする予定です。現在、計画を進めている首羅山遺跡ガイダンスや地域資源との連携を図りながら、町内外の皆さまにも親しまれる森づくりを進めてまいります。

このほかにも、2025年は時代の変化に対応したさまざまな取り組みを進めてきました。変

化が続く時代だからこそ、町として揺るがない軸を持ち、足元を見つめ、丁寧に積み重ねていくことが大切だと考えています。

先週11月30日に東京で開催されたNHKエンタープライズ読売新聞社主催の全国規模イベント、日本未来フォーラムにおいて、本町のバイオ炭を活用した米づくりの実証と収穫したお米を食育・地産地消につなげる取り組みが、ウェルビーングを高める先行事例として紹介されました。

今後も本町にある豊かさと生活のつながりを実感していただく機会を増やしていくことで、町民の皆さんのウェルビーング、幸福度の向上に努めてまいります。

引き続き、議員の皆さまをはじめ、町民の皆さんのご理解とご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

さて、本12月定例会に提案いたしますのは、久山町教育委員会教育長の任命同意、条例の制定改正10件ならびに補正予算3件の14議案でございます。

詳細につきましては担当課長がご説明いたしますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年12月3日

久山町長 西村 勝